

令和 6 年度日本医師会学校保健講習会



理事 白井 和美

4月7日に日本医師会館で開催された標記講習会に参加したので報告する。

開会、主催者挨拶、来賓あいさつに続き講演1～5が行われた。

講演1は、「公的データに見る生徒指導の課題」を、日本生徒指導学会 八並光俊会長が、講演2では、「こどもの心身症と不登校」を福岡大学医学部小児科学講座 永光信一郎教授が講師を務められた。両先生はともに、コロナ禍期間中いじめ、暴力行為、不登校、自殺、心身症の報告数が過去最高となったと示された。永光教授は、コロナによる長期休校が子供たちに大きな影響を与え、休校によりリセットされた人間関係を再開する際に大きなエネルギーが必要でそれが負担となり心身症（不登校）が増加したと説明された。先生は、GIGAスクール構想で一人一台端末が渡されていることを利用して、さまざまなアプリ等を導入し子供の自殺対策緊急強化プランに貢献すべく協力校と取り組み中とされた。また、心身症のスクリーニングに資するQTA30（子どもの心身健康度スケール）を活用し、同一疾患でも、それぞれに異なる要因が影響を及ぼしているさまを提示され、レーダーチャートを参考に効果的な治療ができると説明された。また今後普及が期待される5歳時健診は小学校入学前に支援が必要な親子をピックアップし、援助を開始できる貴重な機会になるであろうとされた。

講演3では、「学校における感染症対策～『学校において予防すべき感染症の解説』の改訂～」を、福岡看護大学基礎・基礎看護部門 基礎・専門基礎分野教授の岡田賢司先生が登壇され、「学校において予防すべき感染症の解説（令和5年度改訂）」の内容を説明された。感染予防

に換気が重要であることや、新型コロナウイルス感染症に関する記載、輸入感染症としてポリオや結核等についての内容が追加されたとのことだった。

講演4では、「児童生徒の視機能と環境について～コロナ禍を振り返り～」をテーマに日本眼科医会常任理事 柏井真理子先生が、コロナ禍以降、児童生徒の近視者が著名に増加、発症が低年齢化し、高学年では進行した近視者の割合が増えていると報告された。デジタル機器の普及と近視者の増加には関係があり、屋外時間が増加すると近視のリスクが下がるため、デジタル端末の正しい使用法や、屋外活動時間を増やすための努力が重要とされた。

講演5では「オーバードーズ」について、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部部長 / 薬物依存センター センター長の松本俊彦先生から講演があった。OTC薬の過量服薬問題は、コロナ禍で、救急搬送事例が以前の2.3倍になり、依存症外来での10代の主たる薬物がOTC薬となるほど深刻化しており、実態がわかりやすいように具体的な製品名を挙げて説明された。OTC薬濫用は自殺目的以外に不快感情の軽減のためであり、早急な指導は医療離れを来しかねないと警鐘を鳴らされた。

以上の内容は後日、日本医師会ホームページで公開されるとのことであった。

■ 日本医師会ホームページ

https://www.med.or.jp/japanese/members/flv_movie/20240407school/



令和6年度学校保健講習会プログラム

日時 令和6年4月7日（日） 午前10時～午後4時30分

場所 日本医師会館大講堂（東京都文京区本駒込 2-28-16）

主催 日本医師会 ／ 後援 日本学校保健会

テーマ「コロナ禍において顕在化した課題」

開会 主催者挨拶 来賓挨拶	渡辺 弘司（日本医師会 常任理事） 松本 吉郎（日本医師会 会長） 松本 吉郎（日本学校保健会 会長）	
演 題	講 師	座 長
講演 1： コロナ禍における生徒指導の方向性と 課題	東京理科大学教職教育センター 教授 八並 光俊 先生	松村 誠 （日本医師会 学校保健委員会 委員長）
休 憩		
講演 2： 心身症・自律神経失調症	福岡大学 医学部小児科 教授 永光 信一郎 先生	
午前の講演に対する質疑応答		
昼 休 憩		
講演 3： 学校における感染症対策	福岡看護大学基礎・基礎看護部門 基礎・専門基礎分野 教授 岡田 賢司 先生	松村 誠 （日本医師会 学校保健委員会 委員長）
休 憩		
講演 4： デジタルデバイスによる影響／ 視力障碍	日本眼科医会 常任理事 柏井 真理子 先生	
休 憩		
講演 5： オーバードーズ	国立研究開発法人 国立精神・神 経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 薬物依存症センター センター長 松本 俊彦 先生	
午後の講演に対する質疑応答		
閉会	渡辺 弘司（日本医師会 常任理事）	